

北海道浮魚ニュース

令和 8(2026)年度 13 号

2026 年 9 月 15 日

道総研 函館水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎太平洋いか類漁場一斉調査結果

8 月 24 日および 9 月 8 日において、津軽海峡～道南太平洋で、釧路水産試験場調査船北辰丸（255 トン、イカ釣機 5 台）および函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機 5 台）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。2026 年は金星丸の操船設備の不具合および荒天が続いた影響により調査を大幅に縮小し、漁獲調査・海洋観測ともに浦河沖（St. 15）と函館沖（St. 16）の 2 点のみとなりました。

・ 漁獲調査を実施した 2 点では、スルメイカの分布密度は低かった

1. 漁獲調査点における水温およびスルメイカの分布密度（図 1、図 2）

2026 年と 2025 年の調査における、各調査点の位置と採集されたスルメイカの CPUE（イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）を図 1 に示しました。漁獲調査を実施した浦河沖

（St. 15）と函館沖（St. 16）の表面水温は 23.2℃および 24.2℃（2025 年：23.2℃および 24.2℃）、深度 50m の水温は 12.4℃および 18.7℃（2025 年：13.0℃および 18.7℃）でした。水温の参考値として、9 月 9 日に木直沖（St. 1）近傍で実施された海洋観測結果を図 1 に St. 1' として示しました。なお、漁獲調査を実施した浦河沖（St. 15）は 8 月 24 日に北辰丸が、函館沖（St. 16）は 9 月 8 日に金星丸が調査を実施しました。

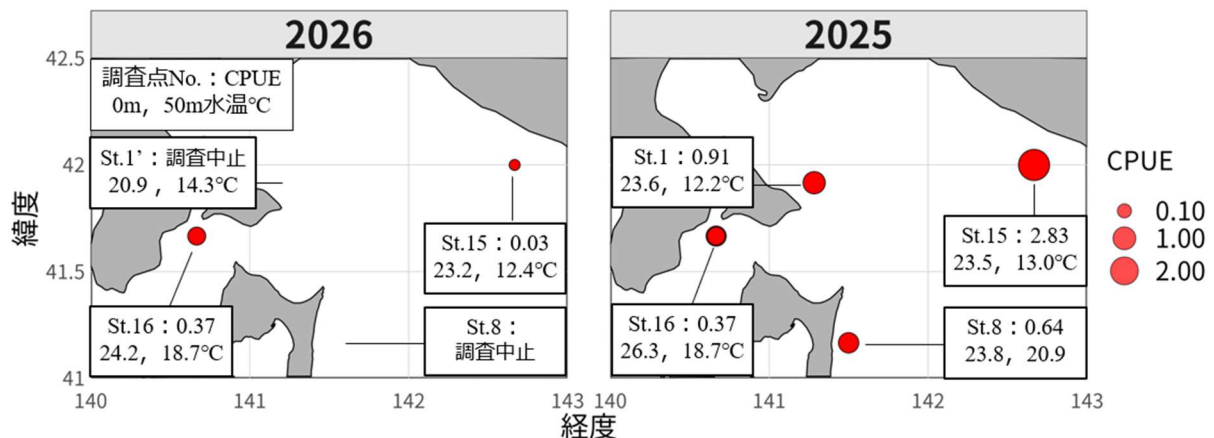


図1 スルメイカの漁獲調査結果（左：2026年、右：2025年）

●の大きさは漁獲調査を実施した調査点におけるCPUEを示す

漁獲調査点では、イカ釣機 5 台を用いて日没後に 5 時間以上漁獲調査を実施しました。漁獲調査における平均 CPUE の経年変化を図 2 に示しました。2026 年に調査を実施した浦河沖 (St. 15) と函館沖 (St. 16) の CPUE はそれぞれ 0.03 および 0.37 でした (2025 年: 2.83 および 0.37、過去 5 年平均: 0.98 および 2.59)。平均 CPUE は 0.20 で、2025 年 (1.19) と過去 5 年平均 (1.67) を下回り、2002 年以降で過去最低値となりました。

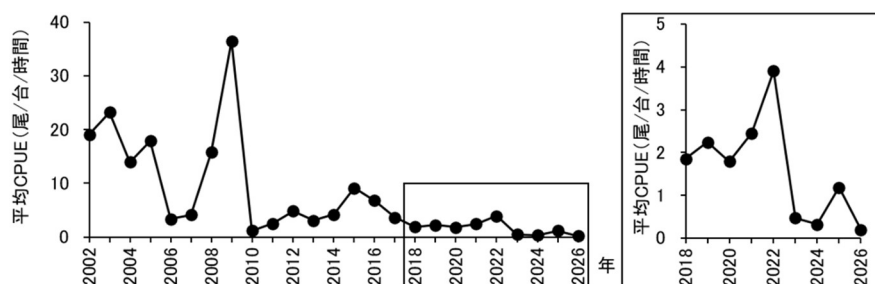


図 2 太平洋いか類漁場一斉調査における平均 CPUE の経年変化
右図は 2018 年以降の拡大図を示す

2. スルメイカの大きさ (図 3)

漁獲調査で採集されたスルメイカ (計 15 尾) の外套長は 7~18cm (2025 年: 12~21cm) の範囲にありました。出現率のモード (最も多く出現したイカの大きさ) は 2026 年が 17cm、2025 年が 17cm、過去 5 年平均が 18cm で、前年および過去 5 年平均と大きな差はありませんでした。ただし、2026 年は 18cm 以上の個体の割合が低く、分布全体としてはやや小型に偏っていました。2026 年の採集尾数は少ないため、海域全体のイカの大きさとしての解釈には注意が必要です。

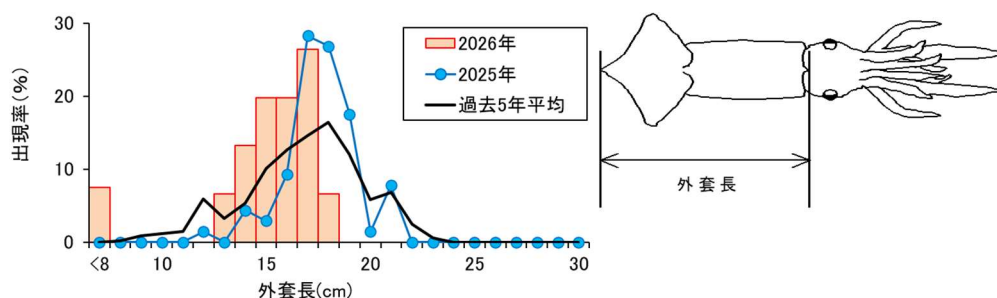


図 3 調査海域全体の外套長組成

※本調査の一部は水産資源調査・評価推進等委託事業により実施しました。

金星丸 海洋観測速報 <https://hro-fish.net/kinsei/>
(函館水産試験場試験調査船金星丸の海洋観測結果がご覧になれます。)

お問い合わせ先: 函館水産試験場調査研究部, TEL: 0138-83-2893
FAX: 0138-83-2849